

鶉松明樺

新野の  
祐子

竹の春うなじを碧い風通る

花野原かいなを櫂にして渡ろ

香に酔うて後ろに傾ぐ菊人形

前世より月の満ち欠け見よという

胡桃割る父の手かつて炭鉞掘る

刈田はやシベリアからの友迎う

雉鳩を埋葬露の玉零し

友ふいに逝きわが肩に秋茜

隠沼こもりぬの下へ羅針儀九月尽

行く秋や鶉松明樺うだいかんばの灯を点す